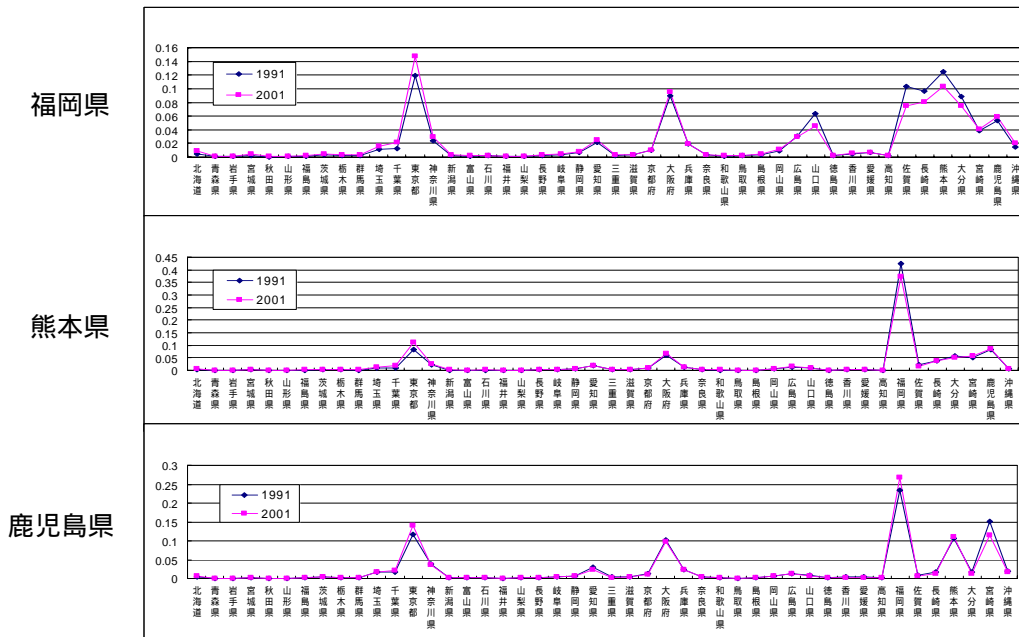


指標：府県間の通話の流動量

府県間の通話の流動を見ると、ブロック内及びブロック外大都市圏への通話が多い。九州を例にとると、福岡県では、ブロック内各県とブロック外大都市圏への通話回数が多く、熊本県、鹿児島県においてはブロック内とりわけ福岡県との通話回数が多い傾向がある。

他県との総通話回数に占める各県の割合(九州の例)



(注) ここで対象とする通話回数は、固定電話同士によるもののみを含み、携帯電話、PHS、公衆電話によるものを含まない。

(出典) (社)電気通信事業者協会「テレコムデータブック等」より国土交通省国土計画局作成